

Security Radar AI

利用マニュアル

初めて使う方向けに、ドメインの登録から、診断結果の確認、修正後の再診断までを説明します。Security Radar AIは、インターネットから見えるメールの設定とHTTPSの証明書を確認するアプリです。

対象バージョン : 0.1.0 / 更新日 : 2026年10月18日

画面画像は実際の画面コンポーネントを説明用のサンプル値で表示したものです。example.com、確認値、診断結果は例です。操作するときは、自分が管理するドメインと、アプリに表示された値を使ってください。画像の番号と本文の番号を対応させています。

読む順番

1. はじめる前に、ドメインとDNS管理先を確認します。
2. 画像の番号に沿って登録・所有確認・診断を進めます。
3. 修正後は新しい診断結果で改善を確認します。

目次

1 はじめる前に	3
1A 共通ログインと企業の選択	4
2 ダッシュボードを開く	7
3 ドメインを登録する	8
4 DNSで所有確認する	9
5 診断を開始する	11
6 診断結果を読む	12
7 課題の理由と対応を確認する	13
8 再診断で改善を確認する	14
9 過去の診断履歴を見る	15
10 取得に失敗したとき	16
11 日々の確認と診断の範囲	17

1 はじめる前に

次の3つを用意します。

1. 管理権限を持つ公開ドメイン。例：自社サイトやメールで使っているドメイン。
2. そのドメインのDNS管理画面へのアクセス。自分で管理していない場合は、社内の担当者や制作会社に依頼します。
3. Security Radar AIのアクセス先URL。管理者から案内されたURLをブラウザで開きます。ローカル起動の場合は `http://localhost:3000` です。

本番の業務機能は、かちっとクラウドの共通アカウントでログインし、利用権限のある企業ごとにデータを管理します。対象企業の契約・サービス利用権限が必要です。公開トップページとログイン導線はログインせずに開けます。利用環境の準備は管理者が [共通認証の導入手順](#) に沿って行います。共通認証を無効にしたローカル開発環境では、固定のログイン不要ワークスペースを利用できます。本番で認証を無効にすると業務機能は利用できません。

操作の流れは **ドメイン登録** → **DNSで所有確認** → **診断** → **課題の確認・修正** → **再診断** → **履歴の確認** です。DNSへの登録と設定の修正は、利用中のサービスの管理画面で行います。

用語	意味
ドメイン	<code>example.com</code> のような、サイトやメールに使う名前です。
DNS	ドメインの接続先やメールの設定を登録する仕組みです。
TXTレコード	DNSに保存する文字情報です。このアプリでは所有確認にも使います。
所有確認	DNSに指定された文字情報を登録し、そのドメインを管理できることを確認する操作です。
DMARC	メールのなりすまし対策に関する方針を、受信側に伝える設定です。
SPF	メールを送信してよいサーバーを示す設定です。
TLS証明書	HTTPS通信で、接続先の名前や証明書の有効性を確認するための証明書です。

1A 共通ログインと企業の選択

共通認証を有効にした環境での操作です。



説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。共通ログイン画面。1のかちっと共通ログインへ進むから本人確認を行う。

1. 「かちっと共通ログインへ進む」を押します。
2. 移動先の共通ログイン画面でメールアドレスとパスワードを入力します。
3. Security Radarへ戻ったら、利用する企業を選びます。共通基盤の「開く」から対象企業を引き継いだ場合は、その企業の利用権限を確認して業務画面へ進みます。

SELECT COMPANY

利用する企業を選択

サンプル担当者さん、Security Radarを利用する企業を選んでください。

サンプル製造株式会社
編集者・契約中・選択中

1
この企業を利用

サンプル商事株式会社
閲覧者・契約中

この企業を利用

サンプル企画株式会社
編集者・停止中

利用権限なし

契約期間・利用権限・接続元の制限により、選択できない企業があります。

共通基盤で企業・メンバー・契約を管理 →

ログアウト

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。企業選択画面。1のこの企業を利用を押す。利用権限なしの企業は選択できない。

企業の追加、メンバーの招待、契約や利用権限の変更は「共通管理」から行います。別の企業へ切り替えるときは、画面上部のプルダウンで企業を選び、「切替」を押します。現在利用できる企業だけが候補に表示されます。

管理者・編集者は登録、所有確認、診断を実行できます。閲覧者は結果や履歴を閲覧し、自分の通知を既読にできます。「閲覧権限で利用しています」と表示された場合は、更新が必要な操作を管理者が編集者に依頼してください。

公開DNS・TLS設定の確認ガイド / PDF生成 2026年10月20日

5

サンプル製造株式会社 閲覧者

2 企業を切り替える 共通管理 ログアウト

1 閲覧権限で利用しています。ドメインの登録・所有確認・診断は、管理者または編集者に依頼してください。

YOUR DOMAINS

ドメイン

1 / 20 件

ドメインの所有確認と診断の状態を確認します。

登録済みドメイン

 example.com

最終診断：2026/10/12 17:00

所有確認済み 診断完了 →

診断には所有確認が必要です

DNSに確認用TXTレコードを追加していただきます。所有権を確認するまで、対象サーバーへの診断は行いません。

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。閲覧者のドメイン画面。登録フォームがなく、閲覧権限の案内を表示する。

企業を切り替えた後に、別タブで開いた古い画面から操作すると、再読み込みを案内することがあります。企業名を確認してから操作をやり直します。

2 ダッシュボードを開く

The screenshot shows the 'SECURITY OVERVIEW' dashboard. At the top right, a green button labeled '1 + ドメインを追加' is highlighted. Below it, a section labeled '2' shows the 'Security status' with a score of 58/100. To the right, a section labeled '3' shows '未対応の課題' (Unresolved Issues) categorized by severity: HIGH (1 item), MEDIUM (1 item), and LOW (1 item). Below this, a green bar indicates '✓ 直近の再診断で 0 件の改善を確認' (Confirmed 0 improvements in the latest re-diagnosis). At the bottom, a section labeled '4' shows '優先して確認する課題' (Issues to check first) with a high-priority item: 'TLS証明書の有効期限が切れています' (TLS certificate validity period has expired) for 'example.com'.

SECURITY OVERVIEW

ダッシュボード

公開設定の状態を把握し、優先度の高い課題から対応しましょう。

1 + ドメインを追加

2 公開設定の参考スコア

Security status

登録ドメインの最新診断から算出

58 / 100

公開設定に関する参考値です。サービス全体の安全性を保証するものではありません。

3 未対応の課題

最新の観測結果

● HIGH ● MEDIUM ● LOW

1 件 1 件 1 件

✓ 直近の再診断で 0 件の改善を確認

登録ドメイン 1 所有確認済み 1 未対応課題 3

ACTION ITEMS

優先して確認する課題

3 件

● HIGH TLS

TLS証明書の有効期限が切れています

example.com

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。ダッシュボード。1はドメイン追加、2は参考スコア、3は重要度別の課題数、4は課題の詳細へのリンク。

1. **ドメインを追加**：初めての診断はここから始めます。左側の「ドメイン」からも登録画面を開けます。
2. **公開設定の参考スコア**：診断できた公開設定の参考値です。未診断・未確認などがあると「—」になります。
3. **未対応の課題**：HIGH、MEDIUM、LOWごとの件数を確認します。まずHIGHの課題から内容を確認しましょう。
4. **優先して確認する課題**：課題名を押すと、理由と対応方法が表示されます。初回はドメインが未登録なので、課題はまだ表示されません。

スコアや課題数だけで判断せず、「ドメインの状態」で所有確認と最新の診断状態も確認します。100点や未対応0件でも、サービス全体の安全性を保証するものではありません。

3 ドメインを登録する

YOUR DOMAINS

ドメイン

0 / 20 件

管理するドメインを登録し、所有権を確認して診断を始めます。

管理するドメイン

1

example.com

2

+ ドメインを登録

URLを貼り付けるとドメイン名に自動変換します。登録後、DNS TXTレコードで所有権を確認します。

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。ドメイン登録画面。1の入力欄にドメインを入れ、2のドメインを登録を押す。

1. **管理するドメイン**に、自分が管理するドメイン名を入力します。HTTPまたはHTTPSのURLを貼り付けることもできます。
2. **ドメインを登録**を押します。登録に成功すると、ドメイン詳細画面に移動します。

例：https://www.example.com/products?from=mail を入力すると、入力欄からカーソルを外したときと登録時に **www.example.com** に変換されます。パスやポートは診断対象に使われません。

example.com と **www.example.com** は別の対象です。診断したいホスト名を選びます。IPアドレス、社内専用の名前、ユーザー名やパスワードを含むURLは登録できません。登録上限は企業ごとに契約の上限と20件の小さい方で、契約上限が未設定なら20件です。認証なしのローカル開発では、固定ワークスペース全体で20件です。

4 DNSで所有確認する

DOMAIN OWNERSHIP

DNS TXTレコードで所有確認

DNS管理サービスに、以下のTXTレコードを追加してください。診断時にも再確認するため、登録したレコードは残してください。

1

種別	TXT
ホスト名	<code>_security-radar.example.com</code> <div>コピー</div>
値	<code>security-radar-verification=DEMO-NOT-A-REAL-TOKEN</code> <div>コピー</div>

DNSサービスによってはホスト名欄に「_security-radar」だけを入力します。反映に時間がかかることがあります。有効期限：2026/11/11 16:00

2

所有権を確認する

3

確認トークンを再発行

再発行すると以前の値は無効になり、所有確認をやり直します。

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。所有確認画面。1はDNSへ登録する内容、2は所有権を確認するボタン、3は確認トークンの再発行。

- DNS TXTレコードで所有確認に表示された「種別」「ホスト名」「値」を確認します。「コピー」でホスト名と値をコピーできます。
- DNS管理サービスを別のタブで開き、対象ドメインのレコードを追加する画面に進みます。
- 下の表を参考に、アプリに表示された内容でTXTレコードを保存します。
- DNSへの反映を待ち、アプリに戻って、画像の番号2の **所有権を確認する** を押します。
- ドメインの表示が **所有確認済み** になれば完了です。

DNS管理画面の項目	入力する内容
種別・タイプ	TXT
ホスト名・名前	アプリに表示された <code>_security-radar.<対象ドメイン></code> 。末尾のドメインが自動で付くサービスでは、相対名を入力します。
値・内容	アプリに表示された <code>security-radar-verification=</code> で始まる文字列全体。サンプル画像の値は使いません。
TTL	DNSの情報を一時保存する時間です。サービスの既定値を使い、不明な場合はDNS管理者に確認します。

対象が `example.com` で、管理画面が末尾の `.example.com` を自動で付ける場合、名前欄は `_security-radar` です。対象が `www.example.com` で、`example.com` のDNS管理画面に追加する場合、相対名は `_security-radar.www` になります。保存後の完成した名前が、アプリの表示と一致するか確認してください。

反映待ちと確認トークンの管理

反映時間はDNSサービスやキャッシュの状態によって異なります。「5分待てば必ず所有確認できる」という意味ではありません。所有確認に失敗したら、[FAQの所有確認の項目](#)を確認します。

確認トークンは発行から30日間有効です。期限切れの場合は、画像の番号3の [確認トークンを再発行](#) を押し、DNSの値を新しい値に更新して所有確認をやり直します。再発行すると以前の値は無効になります。

所有確認後も、このTXTレコードを残してください。診断開始時にも、同じレコードを取得して管理権限を確認します。

5 診断を開始する



説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。所有確認済みのドメイン詳細。1の所有確認済み表示を確認し、2の診断を開始を押す。

1. ドメイン詳細で **所有確認済み** になっていることを確認します。
2. **診断を開始**を押します。処理中は「診断中...」と表示されます。
3. 完了すると、診断結果画面に移動します。通常は数秒から十数秒程度です。通信状態によっては取得に失敗する場合があります。

確認するのはDMARC、SPF、TLS証明書の基本設定です。診断ボタンが押せない場合は、所有確認や確認トークンの期限を確認します。

同じ登録ドメインは前回の診断開始から5分以上空けて再診断します。同じ企業の利用者と定期診断で、企業ごとの診断枠（1時間10回・同時1件）を共有します。認証なしのローカル開発では、固定ワークスペースの全利用者で枠を共有します。回数枠は毎時00分に切り替わり、枠の確認後にエラーになった操作も計上します。ボタンを繰り返し押さず、表示された案内に従います。登録・所有確認の回数枠も含めた一覧は[FAQ](#)を参照してください。

6 診断結果を読む



説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。診断結果画面。1は参考スコア、2は各項目の取得状態、3は確認する課題。

- 1. 参考スコア：公開設定の参考値です。取得できていない項目がある場合は「—」になります。
- 2. DMARC・SPF・TLSの状態：「取得・判定済み」は情報を取得し、判定できたという意味です。課題がないという意味ではありません。「未確認」は判断に必要な情報を取得できなかった状態です。
- 3. 未対応の課題：課題名を押して、詳しい説明を確認します。画面例ではTLS証明書の期限切れがHIGHです。

表示	読み方・次の操作
HIGH	優先して確認します。証明書の期限切れや、SPFですべての送信元を許可する設定などです。
MEDIUM	設定の不足や不備を確認し、対応を進めます。
LOW	運用方針や導入段階を確認し、見直しを検討します。必ずしも設定ミスとは限りません。
INFO	設定状況や取得失敗などの確認事項です。内容を読んで判断します。
改善確認済み	再診断で、前回の課題に該当する条件が検出されなくなった状態です。
今回未確認・前回の課題	今回は取得に失敗したため、前回の課題を引き継いでいます。改善はまだ確認できていません。

診断の状態と日時

「診断完了」は取得と判定が完了した状態です。課題が残っていても表示されます。「一部未確認」「診断未完了」の場合は、取得できなかった項目や案内を読み、時間をおいて再試行します。

結果は画面に表示された日時時点の記録です。日時は日本時間で表示します。現在の設定を確認するには再診断が必要です。

7 課題の理由と対応を確認する

FINDING DETAILS - TLS

TLS証明書の有効期限が切れています

HIGH

example.com - 2026/10/12 17:00 時点

1

01

なぜ重要？

ブラウザや取引先システムが接続を拒否し、サービス利用に影響が出る可能性があります。

2

02

推奨する対応

ホスティング/CDNの証明書を更新し、正しい証明書が公開されているか確認してください。自動更新の失敗原因も調べます。

3

03

確認方法

example.com:443 の証明書をホスティング管理画面で確認し、更新後に再診断してください。

▶ 診断で取得した情報を見る

修正したら、もう一度確認

設定を変更して反映を待ち、再診断で改善を確認しましょう。

4

再診断する

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。課題の詳細。1はなぜ重要、2は推奨する対応、3は確認方法、4は再診断するボタン。

- なぜ重要？**：どのような影響が考えられるかを読みます。
- 推奨する対応**：誰に何を確認・依頼すればよいかを確認します。
- 確認方法**：設定を変更した後の確認手順を読みます。「診断で取得した情報を見る」を開くと、診断時の観測値を確認できます。
- 修正が反映され、診断間隔も満たしたら **再診断する** を押します。

設定を変更する場所は、利用しているDNS、メール、ホスティング、CDNなどの管理画面です。このアプリは自動で設定を変更しません。

メールの設定は、利用サービスや送信元によって適切な値が異なります。課題の説明をメール管理者に共有し、正規のメールが届くかも確認します。スコアを上げる目的だけで、別のドメインの値をコピーしないでください。

担当者に依頼するときは、対象ドメイン、診断日時、課題名、推奨する対応、確認方法を伝えると進めやすくなります。

8 再診断で改善を確認する

1

参考スコア

100 / 100

公開設定の参考値です。安全性を保証しません。

DMARC

取得・判定済み

SPF

取得・判定済み

TLS

取得・判定済み

2

改善を確認できた課題

3 件の改善

HIGH

TLS

改善確認済み

TLS証明書の有効期限が切れています

→

MEDIUM

DMARC

改善確認済み

DMARCレコードが見つかりません

→

LOW

SPF

改善確認済み

SPFはsoftfailポリシーです

→

該当ルールが今回の再診断で検出されなくなりました。設定全体の安全性を保証するものではありません。

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。再診断後の結果。1は新しい参考スコア、2は改善を確認できた課題。

- 課題に対応し、DNSや証明書の変更が反映されるまで待ちます。前回の診断開始から5分以上空いていることも確認します。
- ドメイン詳細、課題の詳細、または診断結果で **再診断する** を押します。
- 新しい結果の **改善を確認できた課題** と **改善確認済み** を確認します。画像の番号2は改善を確認できた課題の一覧です。
- 未対応の課題が残っていれば、その課題の対応を続けます。

スコアは画像の番号1で確認できます。画面例の100点は、サンプルの3項目を取得し、未対応の課題がなくなった場合の参考値です。

改善は、該当する項目を今回取得し、前回の課題に該当する条件が検出されなくなったときに確認されます。通信失敗だけで改善済みにはなりません。前回の未対応課題が、別の課題に変わる場合もあるため、新しい結果全体を読みます。

9 過去の診断履歴を見る

SCAN HISTORY				
診断履歴				
example.com ・ 日時は日本時間				
診断日時	状態	参考スコア	未対応	結果
2026/10/12 17:20	診断完了	100	0 件	詳細を見る →
2026/10/12 17:00	診断完了	58	3 件	詳細を見る →

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。診断履歴。1は最新の診断、2は過去の結果を開く詳細を見るリンク。

- ドメイン詳細の **すべての履歴**、または診断結果の **過去の診断履歴** を押します。
- 診断日時、状態、参考スコア、未対応の件数を確認します。画像の番号1が最新の診断です。
- 詳細を見る →** を押すと、その日時の診断結果が開きます。画像の番号2は以前の結果へのリンクです。

履歴は新しい順で、1ページに20件を表示します。さらに履歴がある場合は **過去の履歴を見る**、過去のページから先頭に戻る場合は **最新の履歴へ** を押します。

再診断後も古い結果は保持されます。古い画面に課題が残っていても、その時点の記録なので異常ではありません。対応後の状態は新しい結果で確認します。

10 取得に失敗したとき

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。一部未確認の診断結果。1は診断状態、2はTLSの未確認表示、3は今回未確認・前回の課題。

1. 一部未確認などの診断状態を確認します。
2. 各項目の **未確認** を確認します。画像の例ではTLSを取得できていません。
3. 今回未確認・前回の課題 は、以前の課題を引き継いだ表示です。今回も同じ問題を観測したとは限らず、改善もまだ確認できていません。

時間をおいて再診断します。再診断間隔の5分も満たしてください。取得失敗が続く場合は、DNSやHTTPSサービスの状態、公開されているホスト名かどうかを担当者に確認します。未確認のまま「問題なし」と判断しないでください。

11 日々の確認と診断の範囲

初回の診断が終わったら、ドメイン詳細の「定期診断と通知」から日次・週次の診断を設定できます。管理者によるワーカーの起動と、共通ログイン環境では実行時の権限確認設定が必要です。変化は「変化通知」に表示し、メール接続設定が完了すると確認済みの共通アカウントにも通知できます。詳しくは[定期診断と変化通知](#)を参照してください。設定変更後や手動で確認するときは、次の順で確認します。

1. 所有確認用TXTレコードが残っていて、確認トークンが有効か確認します。
2. 必要なドメインを再診断します。
3. HIGHから順に課題の内容を確認し、未確認項目がないか確認します。
4. 担当者と対応し、反映後に再診断します。
5. 新しい結果と診断履歴で改善を確認します。

診断対象は、登録したホストのDMARCとSPFの基本設定、TLS証明書の有効期間・名前の一致・信頼チェーンです。Webアプリ全体の脆弱性、社内ネットワーク、メールの実際の配信、DMARCの親ドメインからの継承、SPFの参照先の再帰評価、証明書の失効、すべてのCDN拠点などは診断しません。

公開設定の参考スコアは、サービス全体の安全性を保証しません。困ったときは[FAQ](#)、管理者向けの準備と起動は[README](#)、詳細な診断範囲と制限は[診断方針](#)を確認してください。